

令和2年

松 前 町 議 会

第 1 回 臨 時 会 会 議 録

令和2年 4月21日 開会

令和2年 4月21日 閉会

松 前 町 議 会

各 位

会議録の作成にあたっては、誤りのないよう留意しておりますが、時間の関係上原稿校正は初校しかできなく、誤字、脱字等がありますことを深くお詫び申し上げます。

まことに恐れ入りますが、御了承のうえ御判読いただきたくお願い致します。

松前町議会議長 伊 藤 幸 司

# 目 次

○提出案件及び議決結果一覧表 -----	1 頁
----------------------	-----

## 令和 2 年 4 月 2 1 日(火曜日) 第 1 号

○議事日程 -----	2 頁
○会議に付した事件 -----	2 頁
○出席議員 -----	2 頁
○欠席議員 -----	2 頁
○出席説明員 -----	2 頁
○職務のため議場に出席した事務局職員 -----	2 頁
○議長あいさつ -----	4 頁
○町長就任あいさつ -----	4 頁
○開会宣告・開議宣告 -----	4 頁
○諸般の報告・議事日程 -----	4 頁
○日程第 1 会議録署名議員の指名 -----	4 頁
○日程第 2 議会運営委員会報告 -----	5 頁
○日程第 3 会期の決定 -----	5 頁
○日程第 4 行政報告 -----	5 頁
○日程第 5 議案第 2 3 号 監査委員の選任について（提案説明・質疑・討論・ 起立採決） -----	6 頁
○日程第 6 議案第 2 2 号 令和 2 年度松前町一般会計補正予算(第 1 回)（提案 説明・質疑・討論・採決） -----	7 頁
○閉会宣告 -----	2 5 頁

## 提出案件及び議決結果一覧表

### 1. 町長提出案件

議案番号	件名	議決月日	議決結果
22	令和2年度松前町一般会計補正予算（第1回）	2. 4. 21	原案可決
23	監査委員の選任について	同上	同上

令和2年 4月21日（火曜日）第1号

令和2年  
松前町議会第1回臨時会  
令和2年 4月21日(火曜日) 第1号

---

◎議事日程

- 日程第1 会議録署名議員の指名
  - 日程第2 議会運営委員会報告
  - 日程第3 会期の決定
  - 日程第4 行政報告
  - 日程第5 議案第23号 監査委員の選任について
  - 日程第6 議案第22号 令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)
- 

◎会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
  - 日程第2 議会運営委員会報告
  - 日程第3 会期の決定
  - 日程第4 行政報告
  - 日程第5 議案第23号 監査委員の選任について
  - 日程第6 議案第22号 令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)
- 

◎出席議員(11名)

議長 12番 伊藤 幸司 君	副議長 11番 堺 繁光 君
1番 疋田 清美 君	2番 飯田 幸仁 君
3番 沼山 雄平 君	5番 福原 英夫 君
6番 近江 武 君	7番 工藤 松子 君
8番 西川 敏郎 君	9番 梶谷 康介 君
10番 斉藤 勝 君	

---

◎欠席議員(1名)

4番 宮本 理恵子 君

---

◎出席説明員

町 長 石山 英雄 君	副町長 水産課長事務取扱 農林畜産課長事務取扱
総務課長 尾坂 一範 君	若佐 智弘 君
政策財政課長兼会計管理者兼出納室長	水産課参事兼水産センター所長 渡辺 孝行 君
佐藤 隆信 君	農林畜産課参事兼肉牛改良センター所長
商工観光課長 田中 建一 君	三谷 幸一 君
建設課長 横山 義和 君	教育 長 宮島 武司 君
監査委員 藤崎 秀人 君	監査室長 平田 昭浩 君
議会事務局長 鍋島 孝明 君	

---

◎職務のため議場に出席した事務局職員

議会事務局長 鍋島 孝明 君      議会事務局次長 佐藤 巧 君

議会議務局書記 三 上 大 輔 君

---

◎議長あいさつ

---

○議長(伊藤幸司君) おはようございます。

一言、ご挨拶申し上げます。

本日、令和2年松前町議会第1回臨時会が招集されましたところ、皆様には何かとご多忙のところご出席下さいまして、会議の運びに至りました事を厚く御礼申し上げます。

また、このたびの選挙でご当選されました町長石山英雄君におかれましては、ご精励を賜りまして、町民の信託に応えるよう念願致すとともに、円滑な会議運営にご協力をお願いする次第でございます。

---

◎開会宣告・開議宣告

---

○議長(伊藤幸司君) ただ今から令和2年松前町議会第1回臨時会を開会致します。

直ちに会議を開きます。

---

◎諸般の報告・議事日程

---

○議長(伊藤幸司君) 議会に関する諸報告並びに本日の議事日程につきましては、お手元に配布のとおりであります。

---

◎町長就任あいさつ

---

○議長(伊藤幸司君) 日程に入る前に、町長から挨拶したい旨の申し出がありましたので、これを許します。

町長。

○町長(石山英雄君) おはようございます。

一言ご挨拶を申し上げます。

去る3月24日告示の松前町長選挙におきまして、町民の皆さんから無投票という形で3期目町政継続のご指示をいただきました。町民の皆さんに安心、安全な生活を届ける使命を担う責任を感じているところであります。町民の皆さんが松前町に住んでいて良かったと満足度を実感できるように一生懸命取り組みをしたいというふうに思っております。松前町に住んでいることに誇りと自信を持って前に進みます。

新型コロナウイルスの感染終息の見通しができない大きな国難の時ではありますが、まずは、新型コロナウイルスから町を守ることに全力を注ぐことを最優先と致しまして、町民の皆さん、町議会議員の皆さんの一層のご理解とご協力をいただき、職員とともに安定した町政運営を心掛けますことをお約束申し上げます。ご挨拶と致します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

---

◎会議録署名議員の指名

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。



会議録署名議員は、会議規則第125条の規定により、2番飯田幸仁君、3番沼山雄平君、以上2名を指名致します。

---

#### ◎議会運営委員会報告

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第2、議会運営委員会の報告を求めます。

議会運営委員会委員長、沼山雄平君。

○議会運営委員会委員長(沼山雄平君) 先程開催された議会運営委員会において、本臨時会の会期は本日1日限りと致しまして、議事日程については、お手元に配布のとおり進めることに決定致しました。以上で報告を終わります。

○議長(伊藤幸司君) 以上で報告済みと致します。

---

#### ◎会期の決定

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第3、会期の決定を議題と致します。

お諮り致します。

ただ今の議会運営委員会報告のとおり、今期臨時会の会期は本日1日限りと致したいと思いますが、これにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) ご異議なしと認めます。

よって、そのように決定致しました。

---

#### ◎行政報告

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第4、町長の行政報告を議題と致します。町長から行政報告の申し出がありますので、これを許します。

町長。

○町長(石山英雄君) 令和2年松前町議会第1回臨時会にあたりまして、行政報告を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び経済対策について。

はじめに、新型コロナウイルス感染症により亡くなられた皆様にお悔やみを申し上げますとともに、罹患された皆様の早期回復を心よりお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症を取り巻く環境は刻一刻と変化をしており、感染者数は世界で200万人を超え、国内においても東京都などで感染者数が急増しております。

北海道は、2月28日から3月19日までの間、法律に基づかない「緊急事態宣言」を発表し、小中学校の一斉休校要請、週末の外出自粛等を実施した結果、新規感染者の増加を一定程度抑えられたものの、現在では増加傾向にあり、憂慮すべき状態が続いております。

政府は、3月26日に新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく「政府対策本部」を設置し、同月28日に「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」を示しました。

その後、内閣総理大臣が務める政府対策本部長は、全国的かつ急速なまん延により国民生活、国民経済に甚大な影響を及ぼす恐れがあるとして、4月7日に新型インフルエンザ

等対策特別措置法に基づく「緊急事態宣言」を7都府県に発令し、4月16日には、この対象区域を全都道府県に拡大しております。

当町では、4月7日の「緊急事態宣言」に基づき、同日に「松前町新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置したところであります。

感染症の拡大防止の取り組みと致しまして、町のホームページや防災行政無線を活用し、予防対策や注意喚起、不要不急の外出自粛要請等を周知、5月6日までの期間は、イベント、会議等の中止、延期、町民総合センター、各地域の集会施設等の休館、利用休止を決定したところであります。

また、「緊急事態宣言」の全国への拡大を受け、その翌日に町長として「緊急メッセージ」を発表し、不要不急の外出、大型連休を控えた帰省や旅行の自粛等の協力をお願いしたところであります。

町内からは、これまでに新型コロナウイルス感染症に感染した事案は発生していませんが、今後も感染症の拡大防止や終息に向け、全力を傾注してまいります。

北海道の「緊急事態宣言」以降、観光需要や個人消費の急激な減退が地域経済を直撃しております。特に、当町にとって「第73回松前さくらまつり」の中止を余儀なくされたことは、書き入れ時の町内の旅館業、飲食業、土産店及び製造業など幅広い業種が影響を受け、経済的な打撃は長期化を避けられない見通しとなっております。

国は「新型コロナウイルス感染症緊急経済対策」を決定し、雇用の維持と事業の継続を柱に、中小企業などへの資金繰り対策や事業収入が減少した事業者を対象とした給付金、国民1人あたり一律10万円給付、児童手当を受給する世帯へ対象児童1人につき1万円の上乗せ、更に地域経済の活性化など幅広い用途に使える「新型コロナウイルス感染症対策地方創生臨時交付金(仮称)」の創設などを盛り込んだ補正予算の成立を急いでおります。

当町と致しましては、国や道で実施する緊急経済対策の内容を見極めたうえで、上乗せや支援の行き届かないところに必要な対策を早急に講ずるとともに、一律支給となります10万円の現金給付を速やかに実施できるよう、準備を進めてまいります。また、新型コロナウイルス感染症の収束を見据えた対策についても、地域の経済動向等を踏まえ、迅速に対応できるよう準備を進めてまいります。

この国難とも言うべき事態を乗り越えるため、国と地方が一丸となって、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と緊急経済対策に全力を挙げてまいりますので、町議会並びに町民の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

○議長(伊藤幸司君) 以上で行政報告済みと致します。

---

#### ◎議案第23号 監査委員の選任について

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第5、議案第23号、監査委員の選任についてを議題と致します。

提出者の説明を求めます。町長。

○町長(石山英雄君) ただ今議題となりました、議案第23号、監査委員の選任につきましてご説明申し上げます。

識見を有するものの内から選任されております監査委員藤崎秀人氏は、令和2年4月24日をもって任期満了となりますことから、引き続き同氏を監査委員として選任したいので、地方自治法第196条第1項の規定により、議会の同意を求めようのするものでございます。

藤崎氏につきましては、松前町字大磯16番地1にお住まいで、昭和24年12月13日生まれの70歳でございます。また、監査委員歴でございますが、平成24年4月25日から監査委員をお願いし、現在2期目でございます。

以上が議案第23号でございます。何卒議員の皆様方のご同意をお願い申し上げます。

○議長(伊藤幸司君) 説明が終わりましたのでこれより質疑を行います。

(「なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) 質疑なしと認め質疑を終わります。

これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) 討論なしと認め討論を終わります。

これより起立による採決を行います。議案第23号について提案に同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(伊藤幸司君) 起立全員であります。

よって議案第23号は提案に同意することに決定しました。

---

#### ◎議案第22号 令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)

---

○議長(伊藤幸司君) 日程第6、議案第22号、令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)を議題と致します。

提出者の説明を求めます。政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) おはようございます。

ただ今議題となりました議案第22号、令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)の内容をご説明させていただきます。

令和2年度松前町の一般会計補正予算(第1回)は、次に定めるところによるものです。

第1条、歳入歳出予算の補正です。既定の歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ8千218万2千円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ46億5千888万2千円とするものです。2項と致しまして、歳入歳出予算の補正の款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額は、「第1表歳入歳出予算補正」によるものです。

第2条、地方債の補正です。既定の地方債の補正は、「第2表地方債補正」によるものです。

それでは、歳入歳出詳細を事項別明細より説明させていただきます。歳出から説明をさせていただきますが、今回の補正予算は、当初予算が骨格予算であったことから、6月の定例会で提案する肉付け予算では、事業の執行が間に合わないものを提案させていただきます。12ページをご覧ください。

3. 歳出です。2款1項5目地域振興費で、97万4千円の追加計上です。18節笑顔づくり推進スマイル応援補助金として、97万4千円の計上です。これは、まちづくりものづくり資格取得事業として、提案事業を応募したところ、まちづくり事業5件、ものづくり事業4件、資格取得事業2件の合計11件の応募があり、町の職員による審査委員が企画提案書等の書類審査を実施した結果、11件全ての事業が採択され、222万4千円の補助限度額となり、既存予算額150万円に72万4千円が不足し、更に新型コロナウイルス感染症対策として、まちづくり事業の5件に各5万円の補助金を上乘せした25万

円と合わせて97万4千円を計上したものです。

13ページです。6款1項3目畜産業費で、37万円の追加計上です。8節肉牛改良センター管理費用弁償として、37万円の計上です。これは、札幌の酪農学園大学等の学生や、大野農業高校の生徒達による肉牛改良センターでの体験実習に対する費用弁償の計上です。

14ページです。2項1目林業振興費で、1千651万2千円の追加計上です。12節町有林整備委託料として、918万4千円の計上です。これは、松前町森林整備計画等に基づき実施される町有林の整備委託料で、21ページに町有林整備事業の概要として、参考資料を添付しておりますので、ご参照願います。続いて、林道環境整備事業委託料として、107万8千円の計上です。これは、島前、大森、寺の沢、將軍山の各林道の草刈りや路面排水施設の清掃など、維持管理を図るための経費の計上です。次に、18節幹線林道島前線改良事業負担金として、625万円の計上です。これは、幹線林道島前線の北海道が実施する改良事業の松前町負担分で、法面保護工55メートル、事業費2千500万円の25%625万円を負担するもので、22ページに幹線林道島前線改良事業の概要として、参考資料を添付しておりますので、ご参照願います。

15ページです。3項1目水産業振興費で、1千876万1千円の追加計上です。8節、10節、13節にまたがる増養殖試験施設等調査事業として、59万1千円の計上です。これは、ウニ、アワビ、コンブ、ヤリイカ、ナマコなど、漁港内や沿岸域での増養殖施設の継続効果や調査を実施するための経費の計上です。次に、10節水産業振興修繕料として、84万7千円の計上です。これは、茂草地区海産干場の修繕で、砂利の敷きならし等に係る経費の計上です。次に、18節漁業支援総合補助金として、1千732万3千円の計上です。これは、松前さくら漁協が計画する栽培、養殖、人材育成、特別承認事業に対し総合的に支援、補助する経費の計上で、23ページに漁業支援総合補助事業の概要として、参考資料を添付しておりますので、ご参照願います。

16ページです。7款1項3目温泉休養センター費で、300万8千円の追加計上です。14節2号井温泉ポンプ入替工事請負費として、300万8千円の計上です。これは、継続的に3年に1度、温泉ポンプを入れ替えるもので、24ページに2号井温泉ポンプ入替事業の概要を添付しておりますので、ご参照願います。

17ページです。8款2項2目道路新設改良費で、1千406万9千円の追加計上です。14節町道改良工事請負費として、1千406万9千円の計上です。これは、江良地区、弁天地区、白神地区町道の改良3件分の工事の計上で、25ページに町道改良事業の概要を添付しておりますので、ご参照願います。

18ページです。5項2目住宅建設費で、2千648万8千円の追加計上です。12節町営住宅建設実施設計業務委託料として、228万8千円の計上です。次に、14節町営住宅解体工事請負費として、2千420万円の計上です。これは、松前町公営住宅等長寿命化計画に基づき、豊岡第6団地の建て替えを行うための解体工事と実施設計業務に係る経費の計上で、26ページに町営住宅解体事業の概要を添付しておりますので、ご参照願います。

19ページです。9款1項2目災害対策費で、200万円の追加計上です。10節災害対策消耗品として、200万円の計上です。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止等による、各避難所での衛生管理や感染予防対策に伴う物品等を用意する経費の計上で、避難所のみならず、感染予防に対しては弾力性のある対応がとれるようにするものであります。

以上が歳出です。次に歳入です。7ページをご覧ください。

2. 歳入です。9款1項1目1節地方交付税で、1千333万1千円の追加計上です。財源調整による歳出財源に対応する計上です。

8ページです。13款2項4目1節社会資本整備総合交付金で、1千191万9千円の追加計上です。これは、歳出に計上しております町営住宅建設事業に対する国庫補助金の計上です。

9ページです。14款2項4目農林水産業費道補助金で、791万5千円の追加計上です。2節森林環境保全整備事業補助金として、447万円の計上です。これは、歳出に計上しております町有林整備事業に対する道補助金の計上です。次に、3節日本海漁業振興対策事業補助金として、344万5千円の計上です。これは、歳出に計上しております漁業支援総合補助金の一部事業に対する道補助金の計上です。

10ページです。15款2項3目1節生産物売払収入で、61万7千円の追加計上です。間伐材売払代金及び更新伐売払代金のいずれも歳出で計上しております町有林整備事業のスギの伐採に伴う売払代金です。

11ページです。20款1項1目1節総務管理債から、9目2節住宅債まで、全体で4千840万円の追加計上です。いずれも歳出で計上しております各事業に対し、起債充当見込額を計上したところであります。

以上が歳入です。2ページをご覧ください。

第1表歳入歳出予算補正で、歳入です。歳入合計が補正前の額45億7千670万円に補正額8千218万2千円を追加し、補正後の額を46億5千888万2千円にするものでございます。

3ページです。歳出です。歳出合計につきましても歳入同様、補正前の額に補正額8千218万2千円を追加し、補正後の額を46億5千888万2千円にするものでございます。

4ページです。第2表地方債補正です。追加の分として4件、変更の分として2件を記載のとおり補正しようとするものでございます。

以上で議案第22号、令和2年度松前町一般会計補正予算(第1回)の説明とさせていただきます。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長(伊藤幸司君) 説明が終わりましたので、これより質疑を行います。

質疑ありませんか。

7番工藤君。

○7番(工藤松子君) 水産関係のところなんですけども、確か、ナマコの採卵は弃天のところやっていた記憶があるんですけども、ナマコ、種苗購入ちゅう欄があるんで、あそこで採卵したナマコは大きく育てることができなかったのか。その育てた他にも更に追加して購入するのか、その辺のどこ、ちょっとお尋ねしたいと思います。

○議長(伊藤幸司君) 水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) ただ今の工藤議員さんに対しまして、ナマコの放流の関係でございまして。うちのナマコの種苗放流につきましては、今予算計上してますナマコの種苗を購入して放流するというものと、各自で荷捌所で漁業者が取り組んでおります、自分達で親のナマコから卵をとって孵化させて、それを放流すると。それとうちの水産センターでつくっているナマコの種苗を試験的に放流すると。この三つの柱で進めております。

ですので、水産センターのナマコの放流とは別に、栽培公社の方から例年どおり12万個を買いまして、各実行組合12地区に1万個ずつ放流するというような予算計上でござ

います。ご理解をお願いしたいと思います。

○議長(伊藤幸司君) いいですか。他に。

5番福原君。

○5番(福原英夫君) いくつか。ページ12ページの総務費スマイル補助金、住民主導のいいメニューだったものですから、今回補正をしてでも対象者全部に支援するっていう体制、額はもう少し多くてもいいかなと思ってんですけども。それで、ここまで来たものから、今回11件ですか、どのような内容のね、申し込みがあったのか、ちょっとそのところご答弁願います。

それとページ13ページ、農業費。いよいよ始まるなあと、すごく期待しておりますんでね。それで、このいろんなメニュー考えてるんでないかなと思うんです。その一つかなあとと思ってまして、それ今どういうふうな考え方で、これを導入するのか。

それともう1点は、現在までの、もし差し支えなければ現在までの取り組みの推移、状況も合わせて答弁いただければなと思います。

その次、ページ15ページ、水産業費。先日総会があったよう、漁協の総会があったようでございますけれども、何か黒字になったということをお聞きしました。それで、あれだけ大きいお金を3年間投入するものからね、期待してここの部分を見ていたんです。それで、ここの中のこの資料からいくと、その前だね、養殖、需用費の増養殖の調査、どのような調査をするのかなと思って。それと18節の負担金補助、漁業支援総合補助金、ここを少しかいつまんで内容をちょっと答弁していただければ、その次に質問致します。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) それでは、福原議員さんからの質問のスマイル補助金11件、どのような内容の申し込みがあったのかをお答えしたいと思います。

まず、まちづくり事業は5件と私の方から説明させていただきました中のうち3件は、去年も実施しました飲食店のお祭り、商工会の青年部のプレミアムサマーフェスト、そして松前MUJOYNTという音楽のイベント、この3件は去年も実施した引き続きのものであります。その他の2件が新規でありまして、バスケットボールのトーナメントをやる。それと清部の納涼花火大会に関するイベントをやりたいというので5件でございます。

ものづくりにつきましては、全て新規でございます、重ね押しスタンプラリーと言いますから、スタンプラリーをしながらはんこを重ねていくと一つの絵になるというようなものを開発するというので、観光協会が主導で行っているのが1件。それと、桜の里の染め物による手工芸品の開発ということで、新しい団体が立ち上げたそういう事業。そしてもう一つが、体位変換枕の製作ということで、寝たきり等の方に床ずれって言うんですか、そういうものをおこさせないような枕をつくって、まずは試験的につくって販売してみたいというのがあります。そして、最後は通常の事業者の皆さんのウニ瓶の化粧箱、パッケージの改良のリーフレットをつくるというので5件、ごめんなさい、4件がものづくりとして新規にありました。

最後、資格取得事業につきましては、免許の取得ということで、中型、今、大型と言うんでしょうか、中型というんでしょうか、8トンクラス、中型免許の取得を2件応募があったということで、計11件を全て採択させていただいたというところでございます。

○議長(伊藤幸司君) 2点目、農林畜産課参事。

○農林畜産課参事(三谷幸一君) 議員からのご質問にお答え致します。まず1点目については、今回の費用弁償の研修に係る内容ということで、それともう2点目は、現在までのセンターの取り組み状況と、その進捗ということでよろしいでしょうか。

1点目ですが、今回酪農学園の単位実習と札幌にございます北海道農業専門学校、俗に八紘学園と言うんですが、その単位実習を念頭に考えております。これについては、交流人口の増加ですとか、松前町における畜産の担い手の確保のための一つの手段として捉えております。

それともう1点、大野農業ですけれども、大野農業高校は、今現在乳牛が10頭いるそうでございます。肉牛についてはゼロなものですから、現場のフィールドがないということで、学校も非常に危うんでおりました。実際、採卵の現場を見せることなく、映像だけで全部済ませてらしたそうでございます。それが、渡島管内にこういう施設があるということで、ぜひ学生に見せてあげたいということで、現地研修もそこで行えたら、現場フィールドとして活用させていただけたらありがたいということで申し出がございましたので、大野農業の学生をこちらに来ていただいて、実際に研修を積んでいただく講義を行うと。

それと、酪農学園と八紘学園については、単位実習をセンターで、学生の単位実習をしてもらおうということで旅費の計上をしてございます。また、酪農学園と八紘学園については、担い手の将来、担い手の確保という意味も込めましてガイダンスの要望もございまして、研修のガイダンスの要望もございまして、それに向けた活動も合わせてしてまいりたいというふうに考えております。

それと、センターの現在までの取り組み状況でございますが、30頭、昨年度の30頭の予定に対して、今32頭の雌牛がおります。採卵も2月の下旬にしております。明日またもう一回実は2頭の採卵をする予定でございます。前課長が買ってきた高い牛がおりますので、その資源の活用を有効にさせていただくために、また明日採卵する予定でおります。

一回目の採卵において、移植をした牛が7頭いたんですが、とまったのが2頭いまして、その牛が今年の12月の中程から分娩を開始し始めます。また、つかなかった牛についても凍結卵を活用致しまして、まだ妊娠鑑定はしておりませんが、2頭ほどついている状況なので、明日明後日に妊娠鑑定をする予定でおります。来月からまた20頭、5月に10頭、6月に10頭、令和2年度に導入して繁殖、52頭の陣容で事業がスタート致します。

それと研修生なんですが、今現在研修生が1名、地元の40歳の男性が今実際研修しております。5月に入りますともう1名、北大の獣医の資格を持った方が1名研修に来られる予定で今おりますが、静岡から来るもんですから、ちょっとコロナウイルスのこともございまして、ゴールデンウィーク前には来るんですが、自粛期間をここでとっていただいて、それが明けましたら、早速研修を開始する予定でございます。今のところ、計画どおり研修生と牛の導入については進んでおります。以上でございます。

○議長(伊藤幸司君) 3点目、水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) 福原議員の水産に対するご質問、2点ほど、増養殖試験事業の調査、具体的にどういうことをするんだということと、漁業支援の関係、かいつまんでいう話でございました、ご質問でございます。

まず1点目、増養殖の試験施設等調査につきましては、今毎年計上させていただいている予算でございます。具体的に申しますと、例えば港に放したナマコ、例えば付着基質を試験的に入れてみると、それにどのような形で付いているのか、それともそんな付かないのかとか、そういう調査ですとか。例えば、今ウニの種苗で出荷してますけれども、現状フィールドでその資源が減ってるのかどうかということも、この予算を使いながら我々データどりをしております。また、北大等で来て未利用海藻って言いますか、松前でどのような時期に、どのような海藻が生えているというようなことを調べたりする、具体

的に申し上げますとそのような調査に使用しております。

そして、第2点でございます。漁業支援総合補助事業についてということでございますけども、参考資料ページ23ページに大体今年のメニューを記載して、参考資料として添付しております。

ウニ深浅移殖事業から資格取得事業までは、例年計上して挙げている事業でございますので、これは例年どおりという形でご理解いただければと思います。ただし、今年特別ということで、事業ということで、流通等整備改修事業ということで、まず1点目が、松前市場の現状使用してます14トンの活魚水槽でございますけども、夏場になると水温が上がって、ヒラメだとか、そういうアワビだとかへい死してしまうという現状がございますので、それを水温をコントロールするって言いますか、下げるっていう機械を導入するというのが今回この部分でございます。

そして、下の方にマグロ漁業補完推進事業ということでございまして、マグロ延縄漁業がですね、今いろいろな制約受けて大変苦しんでいるということなんで、それから、漁業を転換するという部分に、漁業者に対しまして助成して漁業転換を図っていくという狙いでございます。今年につきましては、静浦地区のマグロ漁業者がコンブ養殖に取り組みたいということで、その施設の整備と、島のマコンブの潜式漁業に転換するというところで、そのポンペを充填するコンプレッサー等を支援したいというような、簡単に言いますと、概要言いますと、そのような事業になっております。以上でございます。

○議長(伊藤幸司君) 5番福原君。

○5番(福原英夫君) まず1点目から、スマイル応援補助の関係で、内容はわかりましたけども、こうなんて言うんだらうね、町の活性化だとか、町の事業が変わるようなメニューがもう少しあればいいなあというふうに感じたんです。今、ここを見ると免許を、中型免許をとるのに支援するだとか、ちょっとこう頭を傾げたりするところもあったり。それとバスケットのトーナメントなどは、考えてみれば社会教育の体育振興事業かなあと思ったりしたりして、社会教育の方で、教育委員会でないというんであればね、こういうふうなことで救ってあげなければならぬけれども、何かそんなことで、もっと町が沸き立つような事業メニューがあればいいなあ。そういうこと考え方が、指導がこれからもしていくのかどうかという、その1点だけ教えてください。

それと、畜産の関係、順調に来てるなあと思ってました。一番難しいところをあえてチャレンジしたのかなあ。酪農学園だとか大野農業、担い手交流人口、そして松前町に魅力あったら来てもらいたい。そして松前町で起業化してもらいたいという狙いがあるのかなあと思って、すごく繊細に多岐にわたって準備してるなあ。それと、牛の関係も順調にいくんだなあ。

それと最後に研修生が町内の方1名、嬉しいなあと思いました。それと、北大卒の獣医の方来てくれるということで、これも大きく発展させるためには大きいなど、人材として大きいなどと思ってました。どのように町の方で受けて、これから長い時間松前町でね、頑張ってくれるかっていうところがテーマかなと思ってました。その他に来年は何人、再来年は何人、そういう計画もきっちもって立ててるんでないかなと思いますけどもね。

それで、ちょうどコロナで第1次産業のいろんなものが売れなくなってる、この日本の和牛も値段も落ちてしまってるし、大変だなと思いますけど、ちょうど準備期間としては良かったのかなという、良い方にとってました、私は。そんなことでもう一踏ん張りして人材を確保して、定着させていってほしいなど。考え方があれば答弁していただきたい。

それと、3番目の関係なんですけどもね、調査については良くわかりました。僕もやは



りナマコ、港内に放流してるナマコどういうふうになってるのかなあっていうのは、追跡調査ってのはしてたと思うけれども、よりそうやってくれば、漁師の人達が均等にね、このものも配分もあるし、自分達もとれるなというふうに思っ。ウニの資源、これもやはり稚貝で出してますんでね、このところをもう一回資源をっていうのを、大発生するのに7年って言われてますからね、7年に1回が大発生ですから理論的には。しかし、松前町の資源はどうなのかなっていうことは随分気にしました。

そんなことで、私はいつも言ってるように、ウニは今年は暴落してますけれども、来年再来年以降は、ウニっていうのは大きい付加価値を望めるなあと思ってる、年3回でも4回でも品物として販売できるっていうことを聞いてますのでね、やはりここに精力かけてもらえればなど。

それで、次に、漁業の支援、補助の関係なんです。去年ナマコの確保できなかったんでなかったかなと思いました。大丈夫かなと。それとアワビも去年着業する業者も落ちて、付加価値も高められてきてなかったもんですからね、なかなか。それで、漁業者としては魅力あるけれども、離れていくと。昨日一昨日のチラシで、ラルズで韓国の輸入物が4個で700いくらでしたか、800円ぐらいでしたよね。だから、購入するのに単価はかかるし、餌だとかいろいろかかるだろうけども、そういうものがどンドンドンドン毎年入ってきてますんでね、売れないっていうことではないですよ。そんなことで、ここも本当に種苗がね、十分に確保できるのかな。

それで、言いたいことは、あれだけ議論した松前の漁業協同組合が再生するのに、この程度のボリュームでいいのかということ言いたいんです、私は。やはり補正として少ないっていう気持ちが強いんです。それと、十分に組合の加入している漁業者と本当に話してるのかなと。本当に地回りして協議してきたのかと、組合の職員と一緒に、町の水産課だけでなく、本当に松前町の漁業が再生できるのかという、そのスタートの年なんです、私は心許ないなど。それと体制も刷新できないで、このままいくんですから。それは十分に理解してると思いますけど。やはりそのところ。

それと、私、若い人達で漁業転換をしようとしてても、なかなか踏み込めないんですよ、変えれないんですよ、漁船漁業から。それで離島小島にダイバーをやる、そして去年は随分生産性上げた。そういう人はダイバーの資格とるのに自己負担で行ってましたよね、自己負担でした、そして今回はどうでしょうか。そういう人達にも設備は補助するけども、資格を取る人、そういう人達っていうの大事でないでしょうか。その人達、1人1千万円以上上げたとか、何千万上げたとか聞きますし、ダイバーでナマコで何千万上げたとか聞きますから、若い人達が生産性上げれるような魅力ある漁業に転換していかなくや。コンブ養殖もやってくれる人が出てきたと。やはりそういう支援策っていうのは大事でないでしょうか。そこを答弁してください。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) 福原議員から、スマイル補助金の関係で、町の活性化、町の事業が変わるようなメニューが少ないのではないかとということで、免許のこととバスケのこの話を出しながら、今後指導していくのかというようなお話でございます。

先ほど1回目の質問では内容だけ聞かれたので、率直に内容しか答えませんでした、中型自動車の運転免許につきましては、仕事で使わなきゃならない免許なのに普通免許しかなくて大変困ってるという事業者の中で、こういう大変嬉しい事業ができたということで、かなり喜ばれておりますし、この資格取得はあくまでも本人のスキルアップと人材育成、そして会社の方もためになるというものの目的にしておいております。なので、こ

の資格取得の方の中型免許の人達も2分の1うちから補助金出しますが、残った2分の1を会社の社長さんが出してくれる、応援してくれるというのも入ってまして、今回はその会社の社長さんが出してくれて、本人の負担も少なく、そういう免許もとれて、会社も良くなるというような状況になってございます。

また、バスケットもですね、ただバスケットをやるんじゃなくて、それだけやるんだったら社会教育だと思います。このバスケットボール協会は、バスケットボールを通じて松前町の地場産品のアピール、そして松前町をもっと知ってもらおうという、スポーツを超えた松前のPRを図るということをやろうとしてる団体でございます。他の事業も、様々そういう自主的な、自分らでできる、何かできる、松前のために何かできることないかという事業をいろいろ模索して、今回11件の提案がされてございます。福原議員は、昔から社会教育ご専門の方ですので、事業が変わるようなメニューというのを求めるんですけど、今回は議員言ったように主体性を持ちながら、どのように皆さんが考えていけるかという事業を我々は掘り起こして、それをだんだんだんだん広めてって、自主的な活動に繋がればいいなというような補助金でありますので、もしできることならば、もう少し大きな目で見ていただければなって、本当に思います。

これから、この方達がいろんな事業をとおして、町のいろいろな活性化に繋がっていけるんじゃないかと思しますので、そういう意味では我々の方から直接指導ということはしてはいけませんけども、話を聞きながらいろいろ続けていってもらったり、助言なりは少しはしていきたいと考えてございございので、ご理解のほどよろしくお願い致します

○議長(伊藤幸司君)2点目、農林畜産課参事。

○農林畜産課参事(三谷幸一君) 研修生の確保の今後の考え方と、それと和牛の最近のちょっと状況についてご説明致します。

研修生の今後の確保の仕方ですが、酪農学園等については3度ほど、昨年お邪魔しました。大学の先生ともいろいろお話しして、最近の学生の考え等もお聞きしたところで、その始めたのがやっぱりちょっと遅かったっていうのもございました。昨年の施設完成とともに走ったっていうところもございましたので、ちょっとスタートが遅かったかなというような反省、こちらの方でするところですが、学校の方へ行きますと、やっぱり情報発信が少ないっていうのをすごく感じました。実際情報発信してみると、今年3月に実は酪農学園から1人短期実習にまいられました。その方は、もう来年卒業、今3年生ですので、今年もう4年生に今なってますが、4年生で卒業したらもうこちらに来たいという方でした。どんどんこちらから情報発信する場に参加するってことが非常に大事なんだなっていうふうに感じます。北海道の担い手フェアですとかいうのにも積極的に参加して、情報発信をどんどんしてまいりたいと思います。

また、北大の獣医学卒業された竹原っていう、ちょっと個人名出してしまいましたが、その方なんですけど、やっぱり農業経営を、畜産経営をしたいという希望がございませうが、せっかく獣医師の資格を持っていますので、いろいろな活用については、今後ちょっと考えてみたいと思います。

和牛の状況ですが、おっしゃるとおり、コロナウイルスの関連でインバウンドがすごく減ってるということで、枝肉の相場はすごく落ちてます。今大体A5ランクでも2千円ちょっとしてるぐらいです。やっぱり3千円の時期もあったので、かなり落ち込んでるというのは、相場で見ても、新聞紙上で見て状況見てすごくわかるんですが、これはちょっと歴史が繰り返してるって話をするとあれなんですけど、宮崎の口蹄疫がございました。それが実は10年前なんですよ。今朝ほどの農業新聞、実は載ってまして、口蹄疫発生した当

初、どんどん牛を淘汰していきました。ようやく10年経って元に戻ったそうでございます。それは、やっぱり先ほど言ったインバウンドのお客様がいてこそその増頭がなされた結果だと思えます。

また、その後に宮崎の口蹄疫があった後は、東日本の大震災、リーマンショック、いろいろあってその都度ちゃんと畜産農家はちゃんと耐えて、回復しております。また、国の方もこのコロナウイルスの前に、牛肉の枝肉の、実は増量計画を出しています。2018年で、今和牛の枝肉の出荷量ってのが14万9千トンです。それを2035年までに30万トンにする計画で今目標を掲げております。当然それに伴って繁殖牛の増頭計画も目標設定されておりますので、今コロナウイルスが終息すれば、お客様も当然戻ってくると思えますので、このままの状況では終わらないというふうに考えております。

今、素牛の、松前の主産業であります素牛の相場ですが、やっぱり7、8万、いい時に比べて下がっておりますが、先ほど言ったようにこれも終息すれば回復すると思えますので、いい時に、先ほど福原議員がおっしゃったように、いい時に逆に投資したのかなというふうに考える考え方もございますので、一生懸命また頑張りたいと思えますので、ご理解ください。以上です。

○議長(伊藤幸司君) 3点目、水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) まず1点目、ナマコの種苗でございます。去年あのような形で減ったということで、今年大丈夫なんだろうかという話で、お話でございました。先方の公社さんの方には、我々の希望購入数量っていうものは伝えております。公社の方では承りますけども、去年のような事故が今年も発生しないという確証はないので、もしかすれば去年のようなことはあるかもしれないけども、希望に添えるような形で全力で取り組んでいくというような回答でございましたので、我々も例年どおり12万個の購入の予算計上をさせていただきました。

そして、第2点目です。まず、この支援事業全体のこの程度のボリュームでいいのかというお話でございました。大変ありがたい話でございます。ただし、我々も組合ときちっと話を詰めまして、これは我々だけで決めてる話でございませぬ。ですから、今後もしろいろ集中して増やしていく部分は増やしていくというような形をとっていきたくと思えますけども、組合と十分協議をしながら、また漁業者とも協議をしながら進めてまいりたいと思えますので、ご理解をお願いしたいと思います。

そして、最後3点目です。資格、資格に対してもっと業種転換する漁業者に対して、いろいろ資格の助成があってもいいんでないかということで、道立研修所では、例えば、船の一級小型船舶操縦士、潜水土、そして特殊海上無線士、そういうような形の資格に対しても対応しております。以前その潜水土の講習を利用して資格を取得したという例もございませぬので、そのような希望があれば、この部分でいろいろ対応してまいりたいと思えますので、ご理解をお願いしたいと思います。

○議長(伊藤幸司君) 5番福原君。

○5番(福原英夫君) まず1点目、佐藤課長、まあ、社会教育やってたとか何とかっていうこともそうなんだけど、それよりも自立し物事できるような下支えをしてほしいということだけなんです。だから、社会教育であろうと保健であろうと、どんなところのエリア、セクションでやろうと、そういうことは私は言ってるわけでないんです。やはり、もっとそういう芽を育てるために、このお金をどう活用するかっていうことだったんです。それで、今の水産課の方の考え方と、それと佐藤課長の方の企画課の方の考え方と、もう少しきちっとした調整をして、きちっとしたルールをつくられたらいいんでないかなと思った

んです。やはり今こう二つ重ね合わせると、ランダム、バラバラだというふうに捉えられるんです。片方はこういう考え方である、片方はこういう考え方でここまでだよって考え方。そうではなく、やはり私は企画、政策財政課が中心になって、支援の方向、支援の仕方、そういうのを構築したらいいんでないかと、これ随分前から言ってますけど、そういう考え方を佐藤課長どうでしょうかということ、最後に。

それと畜産の参事、いろいろ頑張っていたいただいて期待しておりますので、答弁はよろしいですから、まずは頑張って、身体壊さないようにしていただきたい。

それと水産の渡辺参事にも、言葉としては頑張れよってという言葉なんです。それで、松前の漁業は、水産課のね、渡辺参事以下職員みんなの肩にかかっているんですよ。そんな意味でメニューの焦点化、そしてどの部分に焦点を絞っていくか。それと、この今アワビである、商品として付加価値、値段がつかないと。したらどういうふうにして販路を拡大するのかというふうなところを漁協と両輪で、それと漁業者とトリプルでね、考えてくれないかなという気持ちがあったんです。それで、漁業は松前町の大きい産業基盤ですのでね、そんな意味で期待が大きいもんですから、きつともってこんなことやりたいと、町長と副町長とご相談したら、きつともって、よしやれよってというゴーサインが出ると思えますよ、私は。それだけ町長も、松前は漁業で成り立っている、漁業をどうにかしなければならぬと、強い思いがあるんですよ。そんな意味で、もう一歩も二歩も踏み込んでね、企画実行して、そして生産性上がるように育ててもらいたいなと思ってます。最後に答弁していただいて。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) それでは、スマイル補助金の中で、福原議員さんの方から自立して物事を下支えするような方向でやれないのかということと、資格取得事業に対しては、いろいろマッチングさせた中で、トータル的に整合性を図ったもので構築したらいかがでしょうかというお話だと思われま。

基本的には、自立してやっていけることを下支えしたい思いでのスマイル応援補助金がありますが、現在の11件のうち事業者から来てるものっての、かなり少ないんですね。あとは自主的な団体さんがやっついていこうとするもの多くて、なかなか我々も思っている2年後は、自分だけで独立してできるような方向でもってやるという方なものには、なかなかいってません。

ただ、先ほど言ったように自主的な活動っていうのは、応援するべきということの観点から、この補助金を出しておりますし、そもそも独立してやろうとするような補助金であれば、30万円を限度という補助金なので、なかなかそこまで、きっかけをつくるにはできるんでしょうけど、事業に乗せるまでの中での補助金としての使い方が上手くいくのかなというように、我々も疑問持ってますので、その辺は今後の検討課題だと考えてございますが、議員おっしゃるとおり、下支えはしていきながら、今後とも続けていきたいと思ってます。

また、資格取得事業につきましては、基本的に、我々今年からスマイル補助金の中でやっただんですが、本来水産であれ、福祉であれ、様々な資格取得の専門的要素を持った事業があれば一番いいのですが、なかなかそれも進まっていってない状況もありまして、とりあえず、このスマイル補助金の中では、ほとんど何でもいようなものも網羅しながらやれるようにしてございます。その中で資格取得事業を統一的な見解のもとでやった方がいいっていうのは確かでしょうから、今後我々の方でいろいろな資格取得事業につきましては、統一性図れるような内容の中で、各課で実施できるような方法を検討していきたいと

思いますので、よろしくお願い致します。

○議長(伊藤幸司君) 次に、水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) もっと生産性を高めるために、現状にとらわれなくて、もっともっと積極的に進めるべきではないかというご指摘でございました。正しくそのとおりでございます。我々もそのように進めていきたいというふうに思っております。

ただ、それが今すぐ、それが何か言うと、なかなかいいイメージって言いますか、なかなか出てこないんですけども、我々も現状にとらわれなくて、積極的にいろいろまた提案しながら議論してまいりたいと思いますので、一つよろしくお願い致します。

○議長(伊藤幸司君) 暫時休憩します。

---

(休憩 午前11時02分)

(再開 午前11時16分)

---

○議長(伊藤幸司君) 再開します。

他に。

3番沼山君。

○3番(沼山雄平君) スマイル応援補助金と、それから消防費災害対策費について、確認をさせていただきたいと思います。

まず、スマイル応援補助金、今創生総合戦略会議第2期が始まろうとしておりますが、このスマイル応援補助金の中で、おそらく戦略会議が強く牽引しているものと思いますが、どの程度の割合をこの総合戦略会議が占めているのか、その辺ちょっと教えていただきたいと思います。

それと、次にですね、災害対策費、今の新型コロナ、感染が拡大している最中において、やはり備蓄品だとか消耗品も変わってきていると思いますが、何をどの程度集めようとしているのか。その辺のところをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) スマイル応援補助金の戦略会議のどの程度。

○議長(伊藤幸司君) 暫時休憩します。

---

(休憩 午前11時17分)

(再開 午前11時18分)

---

○議長(伊藤幸司君) 再開します。

政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) スマイル応援補助金の申請団体のメンバーが、どの程度総合戦略会議のメンバーに、割合がどの程度あるかということのご質問でございます。実を申しますと、各個人というか団体で申請が来てますので、その団体のメンバーの中に、何人かは総合戦略のメンバー入ってますが、今回来た事業の団体は、割合的には総合戦略のメンバーは少ないです。ほとんど総合戦略以外のメンバーの団体が来てまして、その中にメンバーって言ってもその団体の中で10名とか15名とかいる団体もありますので、その中に少しは入ってますが、総合戦略のメンバーが主体となってやっているとよりは、今回はそれとまた別な団体がやっているとというような割合だというふうに、私の方では理解をさせていただきます。

○議長(伊藤幸司君) 2点目、総務課長。

○総務課長(尾坂一範君) 災害対策費の消耗品費、何をどの程度購入するかというふうなことで、政策財政課長の提案説明にもありましたとおり、今回の新型コロナウイルスに関連しまして、町としての衛生管理や感染症の拡大防止、更には、今回のコロナ関係ないとしても、何かの災害起きた場合の避難所を開いた時の対応をやっぱり基本的に、感染症予防だとか、衛生管理が重要であるというふうなことを改めて考えさせられました。そこで、今回の新型コロナウイルスの部分と合わせまして、町としてある程度の備蓄も必要とするだろうというふうな形で200万円の補正をお願いしたわけでありまして。

内訳としましては、アルコール消毒液1リッターのもの170本、マスク100枚入り100箱、1万枚です。医療用のマスク100入り1箱、防護服、使い捨てであります。100着。ウイルス細菌対策ゴーグル35個、ビニール手袋、ゴム手袋、使い捨てなどを考えております。以上です。

○議長(伊藤幸司君) 3番沼山君。

○3番(沼山雄平君) スマイル応援補助金に関してはわかりました。そこでですね、災害対策費に関しては、これから水災害ということで、避難所にやはり身を寄せる方がいると。そうすると、やっぱり当然ながら感染対策必要なるかと思うんですよね。密集、密接、密閉、こうした空間を少しでも避けるという意味からにおいても、やはり不可能になる部分もあると。そうした場合に、パーティションをダンボールで仕切るなどということは考えてますか。それをちょっとお願いします。

○議長(伊藤幸司君) 総務課長。

○総務課長(尾坂一範君) 今回の備蓄品購入の中には、その部分は入っておりませんが、今後の課題であろうと。

それと、今避難所の収容人員の関係で、ある程度ぎゅうぎゅう詰めになると。それは当然避けていかなければならない対応も、今後ちょっと考えていかなければならない部分だと。いろいろな避難所開設してるところ見れば、本当に体育館であろう、集会施設であろう、本当にぎちぎちになって、個人のプライバシーもないような状況なものですから、その辺の対策も引き続き考えていかなければならないというふうな認識であります。

今回の補正には、その分はとりあえず計上しておりません。以上です。

○議長(伊藤幸司君) 3番沼山君。

○3番(沼山雄平君) 今後の考え方としてですね、こうした避難所にあっては、ぜひプライバシーの保護と感染症防止という立場から、仕切りをやっぱり用意するというのも必要になるかなと思います。

もう一つはですね、今各自治体とも、今国産の液体ミルク、これ災害時においては非常に有効であるということから、やはり備蓄する、あるいはその扱っている店との提携を結ぶということも、最近はこちらは見えきておりますが、そうしたことも今後考えられるのかどうなのか、その辺のところだけお答えいただきたいと思います。

○議長(伊藤幸司君) 総務課長。

○総務課長(尾坂一範君) 今、沼山議員からお話がありました液体のミルク、それにとらわれず、食糧品をはじめ、できるだけそういうふうなお店屋さんとかとは提携を結びながら、ダンボールベッドだとか、そういうのについても他の団体やってるところありますので、情報収集しながら行っていきたくと。ダンボールベッドもちょっと検討した経緯があるんですけども、一つ買うのに1万円、結構な値段するものですから、購入するのではなくて、そういうふうな提携を結びながら。ただ、このダンボールベッドにつきましては、国

の方である程度大きな数を備蓄して、災害出たところに優先的に配布するというふうな考えも示された経緯もありますので、その辺も見極めながら検討していきたいというふうに考えております。

○議長(伊藤幸司君) 他に。

6番。

○6番(近江武君) 漁業支援総合補助金について、ちょっと伺いたいと思います。参考資料に書いておりますけどもね、流通関連施設の維持改修、松前市場の活魚水槽の冷却装置の整備。大変私はね、6年ぐらい前から、これはぜひとも必要だというふうに考えて、いろいろとお話をしてまいりましたが、今ようやく着手できるということに決まって、大変嬉しく思っております。

その規模なんですがね、どのような規模で、どのように考えてるのか、その辺ちょっとお尋ね致します。

○議長(伊藤幸司君) 水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) 今の流通関連施設、松前市場活魚冷却装置の整備についてでございますけども、水槽につきましては、現状の水槽を利用するという事で、水槽の大きさが、現状の大きさが幅が2.5メートル、そして長さが7メートルの水位が60センチ、大体10トン程度の現状備えている活魚水槽、これを冷やすということで、それに冷却装置を取り付けるということで、水槽の規模と致しましては、現状と同じ10トン水槽というような形でございます。

○議長(伊藤幸司君) 6番近江君。

○6番(近江武君) 今の四角いね、型の水槽というのはね、水が巡回する時にね、魚が活動するのに動けないような状況が出てくるんですよ。例えばヒラメだとか、そういう魚、タコは別なんですけども、タコとかアワビとかそういうものはいいんですけどもね。だから、丸いプールのなもね、何個か取り付けてね、そして水の流通によってその魚が移動できるという装置の方がいいんじゃないかと思っております。

と申しますのもね、やはり糞だとか、魚の糞だとかね、そういうのが溜まりやすいという欠点もありますし、それと水温下がるのはいいんですけども、やっぱり水を巡回させることもね、やっぱり大事だと思います。それでもって、その辺のことについてね、もう一回よく考えてみてやってほしいなという要望します。以上です。

○議長(伊藤幸司君) 水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) ただ今、近江議員の質問につきましてですけども、水槽につきましては、今の水槽を利用する形で今回は進めていきたいという形で、今進めております。

それで、水の循環装置も一緒につきまして、それでマックス5度くらいまで冷やせるというようなシステムでございますので、これは、これから例えば丸い水槽に替えるっていう場合にでも、このシステムちょっと変えるだけで機械は取り替えなくてもいいって言うことになりますので、その辺も考慮しながら今後推移を見守っていききたいと思います。以上でございます。

○議長(伊藤幸司君) 9番梶谷君。

○9番(梶谷康介君) 4点お尋ね致します。1点目は、12ページ、何人かの方から質問ありましたけれども、このスマイル応援補助金、非常に私は期待していた事業なんですけれども、今年まで何年か経緯を見てきました。7番議員からも、5番か、5番議員からも関連の質問ありましたけれども、私はね、町民のまちづくりに対する考え方を、あるいは

取組方をね、刺激したってことは非常に良かったなと思ってんです。ただ、今までの取り組みの中身を見ますとね、行政が本当にこの事業を立ち上げた時に、こんな事業があってくればいいなっていうようなものに、どうなんですか、近付いてんですか。11件の、今回に限ってはね、11件の出願に対して100万足らずの予算、表現悪いかもかもしれませんがね、そういう中身でこのスマイル応援補助金っていう制度をつくったのに、目的に近付いてると思ってんですか。

前段で言いましたように、町民の気持ちを起こさせた、間違いなく私はいいと思ってんですけども、せっかくつくったものだからね、これが行政が描いていたような事業に発展していくようなことを町民任せ、もちろん町民に期待してやってることだけでも、行政サイドで何か考えないのかな、今のままでいいと考えてますか、この制度は。

課長から、途中でね、これからの課題だというような言葉もちらっと出てましたけども、私は正に課題だと思うんですよ。今のままで続けて行っているのかと。その辺は考え方がおありでしたら、説明いただきたいと思います。

次は14ページ、14ページのね、島前線なんですよ。これは、資料にありますように災害時の緊急迂回路として、これはもう位置付けられてますよね。事業の中身を見ますと、まだ令和2年、更には令和3年で松前の事業はないみたいですが、福島側は相当残ってますよね。だから、こういう現状を見た時に、目的である災害時の緊急迂回路としてはどうなのかと、そう感じませんか。何かあった時にこれ使えるのと、いつなったら使えるんだろうと、そういう見通しってのはご説明いただけますか。

3点目はね、漁業の関係です。ナマコの話が大分ありましたけども、それはパスしましてね、ウニの深浅移殖の件なんですけどもね、目的は、いわゆるホコどりできない海域から浅い方向にもって、漁業者が自らホコどりするような。更には、深浅移殖することによって育ちの具合がどうなのか、そういうことを確認しながら進めている事業だと思うんですけども、実際漁業者から聞くとね、ダイバーさんが深いところから持ってくる時に、ノルマを果たすためにホコどりできるところからまで採ってるという話をね、漁業者の不満として聞いてんですよ。ですから、そういう状況を水産課、担当課としてはね、どのようにおさえているか。もしそうだとすればね、これ目的に反しますよね。その辺確認しているかどうか、お尋ね致します。

それから16ページの温泉ポンプの件。現状見ますと、非常に、私ほとんど行ってるんですけどね、お客が少ないと。そういう中で、私はもう松前からなくしちゃいけない施設だと思ってますから、これからどうしたらいいのかなっていう心配ありませんか。特にね、今回この2号井の関係で議案が出てますけれども、実際はどう、3号井がほとんどメインでしょう、そして1号井は駄目でしょう、2号井がこういう状態だと。

現在温泉の状況見ますと、垂れ流しじゃない、掛け流しでこうやってんだけど、あのままで行ったら尽きないですか、温泉、そういう心配はありませんか。もしあるとすればね、前段で申し上げましたように、なくしちゃいけない施設だから、ひょっとしたら4号井を掘らなければいけないんでないかっていう心配もするんですけども、その辺の見解はいかがですか。お尋ね致します。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) それでは、1点目としてスマイル補助金のことでございます。梶谷議員から大変期待されておりましたと、まちづくりに対しまして、町民のまちづくりに対して取り組みを刺激したってこと、評価いただきましたが、ただこの今の、今回3年目でしょうけども、行政目的に近付いているかというような認識のお問い合わせだと



思います。私の思ってることを梶谷議員さんも思ってるんだなということが、ちょっとやっぱりありまして、そもそも発足当時は福原議員の時もお話しましたが、きっかけをつくって、その事業に対して独立していけるような応援を町でしていこうというような、メインにした補助金であると私も認識してございます。

ただ、開いてみましたら、意外と本当に刺激をしまして、皆さんがやりたいんだと思うものを出してこられた事業は、これまで何件もあるんですが、それじゃあ独り立ちできていくんだらうかと思うと、政策財政課としての考えとすれば、なかなかそうは繋がって行ってこないという状況が多いというのを認識しています。

しかし、このスマイル応援補助金の別な側面とすれば、先ほどから行ってるとおり、自主的、主体的な活動を応援するというのもありまして、その面ではかなりの我々の目的には近付いておりますが、もう一つの独立してじゃあやっけていけるかというのであれば、ちょっとまだ、はてなが付くような状況が多いなあという認識を持っていますので、できたばかりで、なかなか数も増えなくて、ようやく今年11件になってきたというのもありますので、今後ともいい方向になるような方策も、我々の方でも検討していきたいと思えます。

また、もう一つですね、今回補正97万4千円で100万足らずというお話もあったんですが、実は当初予算で150万見てたものの補正の97万4千円ですので、トータルすれば247万4千円ぐらいの規模の補助となつてございまして、ご理解をお願い致します。

○議長(伊藤幸司君) 2点目、副町長。

○副町長(若佐智弘君) 島前線につきまして、農林畜産課長事務取扱の私より答弁させていただきます。

島前線につきましては、梶谷議員ご承知のとおり、完成後間もなく通行止めになりましたので、そして、その箇所もいろいろ落石とか、路肩崩れたり、各地にわたりまして、松前町、福島町もこれを何とか直して、それを活用していきたいという考えのもとではあったんですけど、何分この工事費用、多額にわたりますものですから、何とか北海道の方にその分の補助をお願いしながら、これまで取り組んできたところでございまして。

実は、私も4月に入りましてから、実際島前線走らせていただきました。そういった中で、随分前、以前よりは、建設課当時に見さしていただいた時よりは良くなったなと思つてますし、何箇所か落石等の場所を直すことによって大分安全になるんだなというところまでこぎ着けてまいりました。確かに梶谷議員おっしゃるとおり、松前町側の方はもうほとんど手ついてまして、あと1箇所くらい直すとそれで松前町側大丈夫ということで、福島町側の方のちょっと工事がまだ残るといふような形になっております。

それで、目的としましては、林道ですので、そういう林産業の活性化、当然でございまして。そして、完成したあかつきには、確かに夏場の部分に関しまして、春先、夏場に関しましては、救急車両等の通行は可能かと思つておりますが、以前にありましたように白神の方面で、国道通行止めになった時に大きく迂回して走るよりは、あすこのところを走つた方がずっと近いというのは明快でございまして。ただ、一般車両もずっと通すとなると、やはりこれは困難性が、交差できないといふような部分もたくさんありますので、これは難しいかなと。これにつきましては、福島町側とのちゃんと連絡を取り合いながら、救急車両等の、そういう緊急車両の通行に支障のないように、これは使っていきたいと思つております。ただ、難点は冬期間、冬期間の積雪の時期です。これに関しては、あの距離をずっと常にいつでも走らせるようにといふことで除雪は、ちょっと厳しいものがご

ざいます。ただ、雪のない時期でありましたら、このところは有効に活用できるものというふうに考えております。以上でございます。

○議長(伊藤幸司君) 3点目、水産課参事。

○水産課参事(渡辺孝行君) ウニの深浅移殖のご質問だと思っております。それで、今事業で行われているウニの深浅移殖、深いところから浅いところにやって、付加価値をつけて販売するという行為が、深いところではないんでないかと、浅いところからも採ってるんでないかという声を聞くというようなお話でございます。我々は、今深浅移殖事業につきましては、各実行組合が、やる実行組合が管理委員等を立ち合わせながら、浅いところに入ってきた場合は注意して、そういうような形で進めていると聞いております。そういう中で、大体はほとんど未利用なホコの届かないところからの深浅移殖になっているというふうに認識しております。ただ、海の中で、海の中で線引きされてることでございませんで、これウニの深浅移殖だけではなくて、例えばナマコのダイバーとホコどり、例えば小島のダイバーのコンブどり、これいずれにしましても若干のちょっと浅めに入ってきたとかっていうトラブルはですね、耳にすることはございます。ただ、その辺につきましては、いろいろ調整しながら、ダイバーに注意しながらそういうふうに行っているというふうに聞いておりますので、このウニにつきましては、故意に浅いところからとってるといような、我々認識はございません。

○議長(伊藤幸司君) 4点目、商工観光課長。

○商工観光課長(田中建一君) 梶谷議員から、温泉を心配していただいているということのご質問だと思っております。まずお客さんが少ないというお話がありました。令和元年度の利用者数は、年間3万4千846名がご利用されてございます。これは、前年比で見ますと4千986名の減ということになります。毎年このようなペースで減少しているといった実態にまずございます。

また、今回2号井のポンプの入れ替えでございますけれども、現在3号井と2号井、これは3年ごとの入れ替えということになっております。3号井につきましては、浴槽用の源泉でメインとなるもの。今回交換します2号井については上がり湯用のサブになるもの、いずれも3年ごとの入れ替えということで、少し枯渇の問題もありますけれども、平成19年度に給湯方式を掛け流し方式から、今回の循環濾過方式へと移行したことによって、源泉の枯渇は当面心配ないものというふうには考えてございます。

ただ、利用者の減少と施設の維持管理両面で考えますと、運営はかなり厳しいものというものは実感してございます。今回指定管理期間が令和5年度で切れますので、まずこれまでの、令和5年度までの検討課題としまして、今後の温泉のあり方、継続的に検討してまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○議長(伊藤幸司君) 9番梶谷君。

○9番(梶谷康介君) それぞれお答えをいただきました。1点目のね、スマイル応援基金の件なんですけれども、正に町民の気持ちと、あるいは取り組みだけを期待して、このまま流れて行って、この制度が活かされるっていう考え方であればね、私は非常に問題が残るんでないか。ですから、できるならば、そういう人方と行政と、もっといい方向に行くためにはっていうような知恵の出し方ってのは必要でないでしょうか。今後の課題として、大きくクローズアップされるんじゃないかなと思いますんで、その辺のお考えを再度お尋ね致します。

それから、島前線ですね。副町長、正にね、松前側は100%と言わないまでも、ほとんど完成に近い形になっていると。しかし、福島側がまだ残ってる。ちょっとひがんだ見

方するとね、これの道路の重要性ってのはね、松前と福島比べたら松前の方が大きいんですよ。そういうことでね、福島がもし軽く見てるんだとすればね、だから言葉慎まないといけないんですけども、やはりこの道路の存在価値っていうものを知っていただきたいし、更に協力していただきたいと。

ちなみに、全長どれぐらいあって、あとどれぐらいやればいいんですか。そして、見通しとしては、この令和5年度で完成するという受け止め方していいんですか。その辺も再度お尋ね致します。

それから2号井の関連で説明をいただきました。私は2号井のことをとやかく言うつもりはございません、現状考えた時にね、前段で申し上げましたように、なくしちゃいけない施設だという認識なもんだから。確かに毎年利用者が減少してるってことは、私も数の上では十分認識してるんだけど、かといって、もうこの施設はいいんじゃないかっていう結論を出されると困るわけね。

ですから、そのためにどうするかっていうことを考えれば、ある時点では4号井の掘削ってなものを検討、課長の答弁ですと令和5年ですか、令和5年を目指して、その辺を課題として取り組みたいというようなお話ですけどもね、3号井掘った当時のね、1メートルあたり、確か7万円ですよ、掘削代ね。しかも、成功報酬じゃないんですよ、失敗したら失敗で、それで終わりのような事態なんだけど、今の井戸の掘り方ってのは成功報酬でね、絶対取り組んだら出るってことは、システム上、技術的にもできあがってるっていうふうに聞くもんでね、もし必要あれば、やっぱり4号井に挑戦するってことも将来考えなければいけないんでないかなと。

ちなみに、今の単価メートルあたりどれぐらいだっことは、課長はつかまえてますか、参考までもしわかったら教えていただきたい。以上、ご答弁を求めます。

○議長(伊藤幸司君) 1点目、政策財政課長。

○政策財政課長(佐藤隆信君) それでは、ただ今のスマイル補助金のご質問で、これまでのように町民の気持ちのまま進めて行っていいだろうかと、できるのであれば、行政と事業者との知恵の出し方が必要ではないかというお話でございます。将来的な状況を踏まえると、私もそう感じてございます。今後まちづくり事業におかれましては、いろいろ町の活性化というような大名目でありますので、このように夏のプレミアムサマーフェストですとか、かなり賑わっているという状況もあります。そういう中で、じゃあ補助金なしで実施できるかというなれば、各売り上げを伸ばしたり、各団体からの協賛金をもらうとかっていうようなものがないと実施していけないという状況も確かにございます。ただ、まちづくりにつきましては、そういう活性化を図る上で進めることが必要だと我々も考えてございますので、そういう面では独立というよりも、応援をしていければなという思いでいます。

ただ今言ったような、今後知恵の出し合いになるのは、ものづくりの方かなという気はしてございます。ものづくりにつきましては、なかなか応募がなく、ようやく今回4件の応募がありました。この中でも、さあ、それでは事業化に繋がるかという、そういうほどのものがまだまだ足りないという認識はありますので、今後とも知恵の出し方っていうことになるんでしょうけども、我々でも一生懸命考えて、思うような方向に進めるよう努力はしていきたいと思っております。

ただ、ただというの申し訳ないんですが、やはり町民の主体性、自主性は大事にしていきたいと考えてございますので、あまり我々が、押しつけがましくなるような補助金にはしてはならないなというのを肝に銘じながら進めていきたいと考えてございますので、

よろしく申し上げます。

○議長(伊藤幸司君) 2点目、副町長。

○副町長(若佐智弘君) 梶谷議員のご質問にお答え致します。この島前線の工事に関しましては、うちの石山町長、そして鳴海町長、これで十分協議をして、そして合意の下で進めております。

事業量としましては、松前町残り55メートルではございますが、福島町は令和5年まであと475メートルという、こういうメートル数でございます。ただ、総体の額で見ますとそれぞれの町の負担金、松前町の2千万弱に比べまして、福島町はそれの約3.8倍、7千500万という負担を、それを了解の上でこれに取り組んでいるということでございますので、鳴海町長からもその辺のところは確約をとった上、確約というよりも同意を得て、この道路は大切だということで、了解を得た上での取り組みでございますので、その辺のところは心配しておりませんし、道の方でも何とか令和5年までに、特段の事情がない限りは予定どおり令和5年で完成ということでのお話を賜っておりますので、ご理解いただきたいと思っております。

全長ですが、工事の事業量でよろしいですか。

○議長(伊藤幸司君) 暫時休憩します。

---

(休憩 午前11時51分)

(再開 午前11時51分)

---

○議長(伊藤幸司君) 再開します。

商工観光課長。

○商工観光課長(田中建一君) 梶谷議員おっしゃるとおり、現状を考えた時になくしてはならない施設という認識は、私も同じでございます。少なからず、年間3万人の方が利用しておりますので、何とかこの温泉を存続したいというふうに考えてございます。

ただ、その存続の方法なんですけれども、総合計画の中には、温泉を健康づくりと予防の中に位置付けてございます。一般利用が少なければ、こうした健康で利用することも、今後考えて行かなければならないものということも考えてございます。

また、4号井の関係でございますけれども、新たに掘削する費用については、私の方では承知上げてございません。ただ、今の利用実績を考えますと、新たに4号井を掘削する、いくら成功報酬とはいへども、なかなか考えづらいのではないかなというふうに、個人的には思っております。いずれにしましても、これらも含めて令和5年が一つの目安ではありますけれども、検討させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

○議長(伊藤幸司君) よろしいですか。

他に。

(「なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) 質疑なしと認め、これより討論を行います。

(「なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) 討論なしと認め、討論を終わります。

お諮り致します。

議案第22号を原案のとおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」という声あり)

○議長(伊藤幸司君) ご異議なしと認めます。

よって、議案第22号は原案のとおり可決されました。

---

◎閉会宣告

---

○議長(伊藤幸司君) 以上をもちまして、今期臨時会に付議されました案件は全て議了致しました。これをもって令和2年松前町議会第1回臨時会を閉会致します。

どうもご苦労様でした。

(閉会 午前11時53分)

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長 伊 藤 幸 司

署名議員 飯 田 幸 仁

署名議員 沼 山 雄 平